

都立多摩高等学校

【校長】 上村 礼子
【生徒数】 433名
【学級数】 15学級



【実態・目標】

- 授業では、積極的に取り組む生徒と消極的な生徒の二極化がみられる。
- スモールステップで授業を進めていく必要がある。
- ⇒ 一斉授業だけでなく、自己調整学習およびグループ活動やペアワークを取り入れて、個別に最適な学びと協働的な学びの環境を整備することで、積極的に意見を言うことができる生徒を増やし、学習意欲の向上を目指す。

目標

- ・性に関する様々な事象について正しい知識をもつことで、より良い行動を選択できる判断力を身に付ける。

【課題・改善】

- 特に性に関する意識は向上したが、それが持続しているかどうかをはかる手立てを開発することが課題である。
学んだ知識を生かし、生徒一人一人が自らの健康ライフプランを作成することには、課題が残った。
- ➡ 【今後の取組】
- 学校全体で生涯の健康教育及び性教育の充実を図る。
- 興味・関心を高めるため、実例を挙げて説明をし、画像や動画を活用する。

【取組】

- 科目保健の授業における活動
積極的に授業に取り組めるように生徒の興味・関心に応じた自己調整学習を実践する。
- 教員の指導力向上のための先進校視察
デジタルを活用した遠隔地での双方向授業のモデルとして、北海道立高校のT-base事業を視察する。
協働的で探究的な学びをオンライン環境で実現する糸口を探る。
- 産婦人科医を招へいした授業の実施
性に対する正しい知識を習得し、自己の健康維持に対する意識向上を図る。

【成果】

- 生徒の意識に関する成果
産婦人科医を招へいした授業に対し、「授業で学んできたことをより深められた。」という生徒の回答が多く、今まで習得した知識を深めることができた。
- 生徒の態度に関する成果
自分だけでなくパートナーの心身の健康についても意識し、気遣う姿勢の必要性を生徒は改めて認識した。
- その他（教員の授業改善など）
産婦人科医の考えや取組に触れ、生徒は具体的な知識を得ることができた。

【取組（詳細）】

○ 科目保健の授業における自己調整学習の推進

2学年の2学期に、「生涯を通じる健康」という単元の中で、ライフステージと健康、思春期と健康、性意識と性行動の選択、妊娠・出産と健康、避妊法と人工妊娠中絶等の中から興味関心に合わせた内容を生徒が選択し、パワーポイントや学習プリントを作成して発表活動を行った。

ICT機器を活用して、自らの健康や、その維持について情報を収集し、得た情報を基に考え、互いに意見を共有する機会となった。



自己調整学習の様子

○ 教員の指導力向上のための先進校視察



配信センター(札幌市内)と夕張高校で実施された授業の様子

- ・北海道夕張高等学校の配信授業を視察。各種サービスを活用して、オンライン授業を受講。
- ・配信元の配信センターを視察。「先生が配信先の生徒の名前を呼ぶ」など、対面授業をオンラインで実現する工夫が随所にあった。
- ・デジタル活用で主体的な学びを実現するためのアイデアを得ることができた。

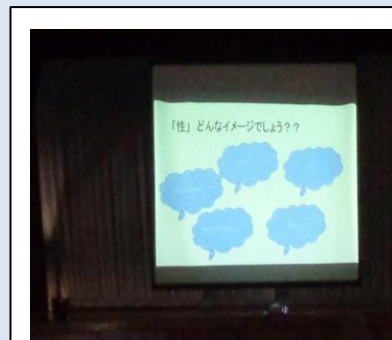
○ 産婦人科医を招へいした授業の実施

＜授業内容＞

1. 月経について知る
2. 多様な性について知る
3. 妊娠と避妊について考える。
4. 性感染症について考える
5. 性に関するトラブルについて考える

＜生徒の感想＞

- ・自分で責任をとれるようになる時、「おめでとう」や「よかった」と言えるような妊娠にしたい。
- ・自分は関係ないと思うのをやめるようにしたいと思った。
- ・体についての知識を深めることができたのでよかった。



公開授業の様子